

河内長野市第2期文化振興計画総括

河内長野市文化振興計画推進委員会

【基本理念のもとでの歩みと展開】

第2期文化振興計画は、平成28年度から令和7年度の10年間を期間とし、「市民が文化を身近に感じ、いきいきと心豊かに暮らすまち」を基本理念に掲げています。これまで、市民、文化団体、アーティスト、企業、行政が協働し、「ひとと人がめぐりあい、感動と活力を生む河内長野型文化事業の創出」に向けて様々な施策を総合的・計画的に推進してきました。

【コロナ禍の試練と新たな活力の萌芽】

計画期間中には、新型コロナウイルス感染症の流行により、多くのイベントが中止や延期を余儀なくされるなど、市民の文化活動や交流は大きな打撃を受けました。

しかしながら、市民の地道な努力と模索により、徐々に活動が再開され、大阪・関西万博への参画などを契機に、市民参加型の文化事業や地域に根差した多様な取り組みが再び力強く展開されるようになりました。

また、近年では、若い世代による新たなコミュニティや拠点づくりも生まれつつあり、コロナ禍の停滞を乗り越えて、「まちを自分たちの手で楽しくしよう」という前向きな気運や成功体験が着実に蓄積されていると考えています。

【主要方針の成果と事業推進の足跡】

計画期間中には、文化会館ラブリーホールの指定管理者による質の高い公演や事業などに加え、学校や福祉施設へのアウトリーチなど、子どもたちが本物の文化芸術に触れる貴重な機会が提供されてきました。また、日本遺産の魅力発信や、地域歴史資源の活用、伝統文化活動やミュージカルなど、多彩な文化・観光資源を地域のにぎわいや連帯感に結びつける取り組みが進められてきました。

また、計画の進捗管理の面では、第2期では事業の実施・継続状況を中心に進捗を確認してきたため、事業によって生まれた人と人とのつながりや、分野を越えた連携、地域で活動する担い手・コーディネーターの働きについては、十分に把握・評価しきれなかったという課題も浮き彫りになりました。この反省を踏まえ、第3期では、従来の数値指標に加え、こうした取り組みや事例を継続的に記録・共有し、その成果や課題を委員会で検証していくことが重要となります。

【次期計画への継承と展望】

これまで、本委員会での議論を通じて浮き彫りになった、行政・事業者・市民などの役割分担のあり方や、子どもや若者世代がワクワク感をもち主体的・創造的に文化に関われる環境づくり、シビックプライドの醸成といった視点は、非常に重要であると考えています。

そこで、計画の推進を通じて、市民の主体的な参画意識を呼び覚まし、文化振興の基盤をより強固にするとともに、文化の持つ力をまちのにぎわいや活力の創出へとつなげ、市民が誇りを持てる心豊かな未来を切り拓いていくため、第2期で育まれてきた人と人とのつながりや新たな機運を、第3期へと継承・発展させていくことを、強く要望します。